

授業科目名	リハビリテーション看護学	担当教員	◎鵜沢淳子、村永信吾 鵜澤吉宏、室井大佑
選択	開講年次：4年前期	単位：1単位	授業形態：講義 15時間

### 【授業概要】

心身の機能、構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした人とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築してゆく過程を支援するための理論と実践方法を学ぶ。セルフケアの再獲得をリハビリテーション看護へ展開するための理論的枠組みとした。

### 【授業目的・目標】

1. リハビリテーション看護が障害発生時から各回復期段階に展開されることを理解する。
2. リハビリテーションを必要とする人の身体的、心理的、社会的特徴とそれに対する援助方法を提供する。
3. リハビリテーション看護を展開してゆく基本的枠組みと看護の果たすべき役割について説明する。
4. 発症から維持期にわたり、機能障害別に代表的なケースを取り上げ、根拠に基づいたリハビリテーション方法を説明する。

### 【履修条件】

特になし

### 【授業計画】

- |                                |         |
|--------------------------------|---------|
| [01] リハビリテーションとは               | (村永)    |
| [02] リハビリテーションの実際 1) 内部障害      | (鵜澤(吉)) |
| [03] リハビリテーションの実際 2) 運動・中枢神経障害 | (室井)    |
| [04] リハビリテーション看護とは             | (鵜沢(淳)) |
| [05] リハビリテーション看護をうける対象者の心理     | (鵜沢(淳)) |
| [06] グループワーク                   | (鵜沢(淳)) |
| [07] グループワーク・発表                | (鵜沢(淳)) |
| [08] グループワーク・発表                | (鵜沢(淳)) |

### 【教科書】

特になし

### 【参考書】

栗生田友子編集(2017)新体系 看護学全書(別冊)リハビリテーション看護,メヂカルフレンド社  
各領域で使用していた教科書および参考書  
その他,講義時間内に提示

### 【評価方法・評価基準】

課題レポート(50%),授業態度(50%)の総合評価とする。

### 【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習:自身が領域実習で学んだ事例を「リハビリテーションとは」「リハビリテーションチームでの看護の役割」の知識をまとめ、対象者にとっての生活の中で行われるリハビリテーションについて考えをまとめる。

事後学習:講義・グループワークを通して、自身の「リハビリテーション看護学」についての考えをまとめ課題レポートとして記述する。

### 【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ.根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ.多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅷ.生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

### 【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

事前学習,および事後学習の課題レポート,グループワークでの記録については,選択実習開始前に学生個人に返却する(掲示により連絡)

### 【備考】